

2020年2月15日

第17号

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

すくらんぶる

最情報報

2.3~2.7

コーディネイト公演

2.13

理事会

2.17

劇場代表者会

2.23~24

県内高校生・青年
交流合宿

3.10

理事会

3.14

ピアノカの魔術師公演

講座「小さな小さな人たちと出会い続けて」 講師:川中美樹氏(山の音楽舎) 2019年9月29日(日)たらみ図書館海のホール

講座参加者約30名は、0～3才の子どもをもつ母親と活動をつくる子ども劇場関係者。わらべうたで遊びながらの始まりは心も身体もほぐれる楽しい経験だった。

わらべうたは、優しく心地良い響き。子どもたちはすぐ重なるように一緒に歌いだす。わらべうたや手遊びは、基本子どもの手を取って教えようとはしない。すべては真似することから始まる。子どもが見て、やりたいと思って、真似できなくても、どうしたらできるかな～と考えて…できた！その達成感こそが大事。どんな赤ちゃんも可愛いと思えて、つい声をかけたくなると言う川中さんは、そんな行動をする大人を全国に増やそうと呼びかけている。

2001年に子ども劇場首都圏から声を掛けられて、2002年に創った作品0・1・2・3才のための「はじめてのおしばい」は「ふわふわ山の音楽会」そして聴いて、見て、感じる作品「うたのたね」へとつながる。てるてる坊主を作り、風の音を聞き、草や木や月をめぐる日本の美しい文化を大切に伝えたい。子どもたちは、音の鳴りやんだあとの静けさを食べて味わっているという。夢見る力は生きる力になる。赤ちゃんも観られるではなく“赤ちゃんが観る”がベビーシアター。アートを見るとお母さんがよくしゃべり心を開く。赤ちゃんとの幸せな時間と空間を共有する。子どものことを発見する。日本でのベビーシアタープロジェクトは、東京都保健福祉財団の助成を受けて、保健所での15分のベビーシアターからスタートした。ベビーシアターとの出会いは、非認知能力を高めるとも言われているようだ。

0歳からの親子の活動をつくるにあたっては、深く考え合うことの必要性を感じた。

公演「うたのたね」(山の音楽舎)

2019年11月21日(木)～11月23日(土)、11月26日(火)

0歳から2歳までの親子対象の「うたのたね」公演は、壱岐子ども劇場、ながさき子ども劇場、諫早子ども劇場、佐世保子ども劇場で取り組んだ。公演が始まる前に待っている部屋には、松ぼっくりや柔らかい布、小さなフェルトの玉などが置いてあり、親子で触ったり転がしたりして遊ぶ。その間も三人の役者がゆっくり動き回りながらわらべうたを歌い、参加の親子の緊張をほぐす。そして、大人たちがわらべうたにのせてトンネルをつくり、あそびの延長のように淡い色の布で囲まれた空間に入る。そして、いよいよ公演が始まる。円形の座席とフットライトの優しい間接照明、役者のひとつ一つの繊細な動きと柔らかなわらべ歌が会場を包み込む。身体全体を使ってゆっくりした表現と生の声をじっと見つめている赤ちゃん。じっとしていられず動き回る子もいる。それを見守るスタッフやお母さんの心配は否めない。月齢によってもかなりの差があるこの時期の子どもたち。この公演におけるスタッフの役割の大きさに驚き、細かい心構えに緊張して本番では作品に集中できなかったという感想もあった。

乳幼児のための舞台はまだ未知の世界だと実感した。乳幼児の発達やどんなことを大切に取り組まなければいけないか、乳幼児の親子に届けたいのはどんな作品なのか、なぜ乳幼児活動をするのかと、目指すものを改めて問い直すことになり、新たな課題も出る取り組みになった。



わらべうたであそぶ
大人同士はちょっと照れくさい…



壱岐子ども劇場の「うたのたね」
ゆったりと遊んだ後にわらべうた
を歌いながら布で囲まれた空間
に入る…

分析を遊ぼう！～やさしく楽しい分析ワークショップのススメ～

2020年1月18日(土) 19時～21時 たらみ図書館

鹿児島の高校生が篠原さんと出会ってその内容に感動し、これで終わらせたくない自分たちで実行委員会をつくってもう一度企画したという話を聞き、「ティーンズにそんなに響くものだったのか、これは長崎でもぜひ出会わせたい」ということで今回のワークショップを実施しました。

キーワードは「分析」。分析的に考えることの楽しさや新しさを体験し学んで、それぞれの生き方に活かしてもらいたいというねらいでした。まずは参加者で円形に座り、篠原さんからのガイダンス。「無理をしない・楽しくやる・怪我をしない、させない」、そして「演劇を学ぶ人である」という約束をしました。

まずやったのは「マッピング遊び」。問いの事柄を円の中央に仮定し、各人が、「会場」までの距離、「演劇」との距離、「分析」との距離をとって立ってみるといったもの。そのあとはグループに分かれ、自己紹介。30秒で考えた「空飛ぶ生き物」「晩御飯にしたいおかず」からグループ名づくり。それぞれにとってもユニークな名前がつけました。休憩をはさんでティピカルストーリーづくり。7分間で順番に話しながら1つの物語を創っていきます。①あるところに、②毎日毎日、③ある日、④そして、⑤そして、⑥ところが、⑦そして(そのおかげで)、⑧そして最後に(その日以来)、というふうな。大事なものは、前の人の設定を受け入れてストーリーを続けること。実はこれは起承転結で、「起」：状況・状態・関係性が示される、「承」：変化が起こる、「転」：最大格差の変化が起こる、「結」：起の状況がどう帰結するかが見える。

この一連のワークで伝えたかったのは、「分析はやさしい」ということでした。分析してその構造や状況・関係性を知ること、人や自分を印象批評で傷つけたりすることを避けられる。最初からいじわるに生まれてくる人はいない、頭の良さはその人に固定のもの



のではない。人はAさんの前では〇〇だけど、Bさんの前では〇〇など、相手によって性格も変わったりする、ということに気づかせてくれました。

「努力」が美德とされ頑張ることを強いられることが多い。強い精神力で頑張れる人、それによって成功をおさめる人もいるだろう。しかしそれができなかつたら「私はダメ人間」「何をやってもダメ」というところに陥ってしまう。そんなことはやめよう！分析はやさしい、がむしゃらに頑張ったりしない。「頑張れ」と励ます大人の「愛」には「感謝」し、「できるわけがない」という大人からはだまって離れよう。自分が楽でいられる・楽にしてくれる人、分析してくれる大人、スペシャリストを選ぶことが大事！というお話で、参加したティーンズも大人たちも目から鱗、気持ちが楽になったワークショップでした。

演劇教育には「人の話を聞く力が伸びる」「自分自身が好きになる」という力がある。演劇では、ぶっさらぼうさも、はずかしがりも、声が小さいのも、その人が持っているステキなものとして認められる。「自分を好きになってほしい」というメッセージがたっぷり込められた2時間でした。

<感想より>

(中1) これからは友達などに対して、いきなり文句などいわず、分析してやさしくいえるようになりたいと思いました。

(中2) 今日参加して、ダメだと思っていた自分と正面から向き合える人間になれたと思います。

(中3) 学校の先生がいつていることはあっていて、まちがっているのかなと思いました。

(高1) 中学の頃にあやまってばかりだったので、これからは先のこととか、他の人のことを考える人になろうと思いました。



わたしの『観る、観るとき、観れば』

子ども劇場の特徴は『観る』ことです。様々な生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことも目指して活動しています。今回のリレートークは、ながさき子ども劇場の古本恭子さん。テレビがまだ一般化していない時代、演劇や映画、祭りなどの文化が、子どもの心に歴史や人への興味やあこがれを紡いでいくことには考えさせられるものがあります。

●子ども時代に住んでいた戸町には昔、遊郭や舟宿が並んでいるような一画があった。戦後、遊郭の後にできたのが芝居小屋で、幼児期に家族に連れられて観に行っていたものである。初めて芝居を観たのはそんな格子戸の残る芝居小屋で、チャンバラの芝居だったと思う。本格的な芝居とはなかなか会わず、映画や歌謡ショーなどを観に行っていた。覚えているのは私と母は「君の名は」を、父は西部劇を浜町の真ん中で分かれて観に行ったりしていた。戸町には『大東映劇』という映画館があって大映と東映の作品を上映していた。芝居小屋で出会った大衆演劇のおかげかチャンバラ映画が大好きで、そして、日本史が好きになった。時代劇というのは意外に史実に基づいていて、そこで日本史の細かいところを覚えたりした。映画俳優の東千代之介、中村錦之助、大川橋蔵など着物姿が格好良くて大好きだった。自分でも母の着物を着て、妹を引き連れ、着物の裾を引きずって遊んでいた。

子ども時代は『おくんち』のきちんと座って三味線をひく地方(じかた)にあこがれていた。『おくんち』は、特に傘鉾が大好きで中がどうなっているのかという興味や、中に入りたいという気持ちが強く、学校で絵を書くときは傘鉾を書いていた。地域の傘鉾は何々組というのがあってそれがずっと続いている。傘鉾は一文銭のようなお金をつないで持ち手のところに巻き付けてあり、上部の飾りの重さとバランスが保てるように調節している。リズムよく歩くのでチャリン、チャリンと音がする。それぞれの傘鉾の飾りが違うように、歩くリズムで音まで違うのがおもしろかった。中心地の『おくんち』が終わってから各地で『おくんち』がある。戸町にも戸町くんちというのがあって、踊り町になった時は、子どもたちも練習する。祭りで地域の大人も子どももつながる。

観る機会があまりなかったからか、つくったりするのが好きだった。自分の生い立ちなどを空想して、意地悪な家族を想像したり、家出したりする物語を作ったりしていた。目立ちたがり屋で舞台にたつとか、主役をほりたいという気持ちがあり、誰をどこに出すかというのをみんなと相談する時に、たくさんしゃべれば役がもらえるだろうという考えでたくさんしゃべって主役をとったことがある。今でも子ども劇場でいろいろやりたいのは、そんな性格があるのかなと思う。

子ども劇場は40年前に入った。家族5人で観た後、わいわい言いながら帰るのが楽しかった。太鼓のときに大きな音だったが、子どもにとっては気持ちのいい音だったのか、一番前の席ですやすや寝ているのには驚いた。最近では人間が演じるアンサンブル作品が減ってきたのが残念。作品では前進座の『山椒大夫』が記憶に残っている。観た人がすばらしい作品ということで、みんなが観たくなくて取り組んだ作品だった。念仏の書かれた舞台装置や鬼気迫る演技に引きこまれた。『宝のつるはし』や劇団えるむの『べっかんこおに』も記憶に残っている。劇団仲間の『森は生きている』は、子どもたちに観せたい、ということで取り組んだ。幼稚園や保育園などの子ども達もたくさん来て「燃えろ、燃えろ」の歌を習っているのが公会堂の中が大合唱になってそれにも感動した。観たい、観せたい、という思いで取り組む作品は楽しかった。そういう気持ちは大切にしたいと思う。(古本 恭子/ながさき子ども劇場)

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名	作品名	開演	場所	主催
このゆびと～まれ！ (劇団風の子九州)	2月9日(日)15:00	開演	諫早文化会館大ホール	諫早文化会館芸術鑑賞会
ほっこりあったか いっちゃんコンサート	2月9日(日)15:00	開演	波佐見町総合文化会館 小ホール	はさみ子ども劇場
観る童話 (F's Company PRESENTS)	2月15日(土)11:00	開演	アトリエ PentA	ながさき子ども劇場
	2月16日(日)15:00	開演	アトリエ PentA	ながさき子ども劇場
Insheart(インスハート) ～心に届くコンサート	2月29日(土)18:30	開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
チト みどりのゆびをもつ少年 (人形劇団むすび座)	4月29日(祝)14:00	開演	諫早文化会館大ホール	諫早文化会館芸術鑑賞会
はれときどきぶた (人形劇団ひとみ座)	5月29日(金)19:00	開演	アルカス佐世保 SASEBO イベントホール	佐世保子ども劇場

**NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

はさみ子ども劇場

TEL: 0956-85-4273

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

◆ピアノカの魔術師 公演

3月14日(土) 15:00 開演

メルカつきまちホール

一般券 2500円

三人編成の大人のため(小学生以上)のコンサートです。そのエネルギッシュな演奏と平和を願う熱いメッセージで観客の心をわしづかみ!

今回はドラムも加わって躍動感たっぷりの圧巻のパフォーマンスです!

完売が予想される作品です!

お買い求めはお早めに!

★第24回長崎県舞台芸術祭典で台風のため実施できなかった五島市『三井楽パラモンキッズ実行委員会』も15日に「ピアノカの魔術師」公演をします。



ピアノカの魔術師

2020.3.14 sat.
メルカつきまちホール
(長崎市駅前3-18メルカつきまち5F)

OPEN 14:30
START 15:00
END 16:20

一般券 2,500円

主催: NPO法人 長崎県子ども劇場連絡会 (長崎市大黒町 4-26-802 / TEL: 095-825-0533)

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に2003年にNPO法人として活動を開始しました。長崎県内にある5つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。「長崎県子ども舞台芸術祭典」、講演会や学習会などの事業を行っています。

★編集後記★

『女・男フォーラム in たらみ』の依頼を受けて、子どもの権利を知り、子育てを考えるワークショップのファシリテーターを経験した。男女共同参画という言葉は、社会や家庭の中での役割の固定観念を考え直すものだが、子どもの権利から考えていくと当たり前のこと。大田堯先生のいうところの「違う・自ら変わる・関わる」と子どもの権利条約の柱、子どもの最善の利益(子どもの身になって考えるつまり相手の身になって考える)を実践すれば、それぞれの特徴を活かしながらの平等に協力し合える家庭や社会をつくることができると思う。一番の問題は国である。「名字を変えたくなければ結婚するな」とやじをとばす国会議員を不問に付すなど、国は『男女共同参画』の旗振りだけで、その精神を根本的にわかっていないのではないかと思ったりする。予算委員会の様子をテレビで見ながら、自分の国の大臣や議員の姿に、恥ずかしさや情けなさを感じるのは私だけだろうか。しかし、こんな人々を国会に送ったのは私たち国民かと悲しくなってしまう。

2月1日の朝日新聞に「フィンランド理想郷?」という記事があった。フィンランドでは子どもの時から自分の意見を表現する経験を重ねる。学校では世の中の物事について「あなたはどうか考える?」と聞かれ、いろんな授業でクラスメートと議論するそうだ。国の発展のため、一人もおろそかにせず自立した社会人を育てることが重要なこと。首相が立場にふさわし能力を持っているか、国民は厳しい目で見ていくそうだ。そんな教育もなされず、政治の話がタブー視され、意見の違いが表れるのを嫌う日本とはかなり違うようだ。(N)

子どもに夢を!

たくましく豊かな創造性を!

私たちは子どもの文化を応援します。

長崎角煮まんじゅう

岩崎本舗

立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL 0957-22-0292

〒854-0072 諫早市永昌町 43-6

医療法人 **マツオ内科クリニック**

TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220

佐世保の中心、ビジネス&観光に。

セントラルホテル佐世保



〒857-0872 佐世保市上京町3番2号
Phone 0956-25-0001

0120-69-0511

白山陶器株式会社

白山陶器

〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL. 0956-85-3251 FAX. 0956-85-6630

一般財団法人 長崎ロープウェイ・水族館

長崎ペンギン水族館
Nagasaki Penguin Aquarium

ダイハツタチバナ

有限会社 **林田車体工業**
〒854-0126 諫早市松里町 288 TEL 23-5318 FAX 24-1378

ホテル周辺にはコンビニ・飲食店街あり。
全客室ネット接続無料! 有線 LAN・Wi-Fi 回線完備

ホテル ウイング・ポート長崎

☎ 095-895-5774 JR 長崎駅より徒歩 3 分
<http://www.wingport.com>

ホテル ジャノメ

諫早市永昌東町 1-39 [JR 諫早駅前]
TEL. 0957-22-0529
FAX. 0957-22-3181